

札幌西・手稲健康友の会ニュース て い ね や ま

発行所：札幌西・手稲健康友の会
札幌市西区西町北19丁目1-5 勤医協札幌西区病院内
直通 666-2877 (FAX 兼用)
発行責任者 高際 一男 友の会員数 10,800

原水禁世界大会に参加して

銭函班 中川原次枝

私はいままで、原水爆禁止及び核兵器廃絶については身近な事ではなく、一般的社会論として感じていました。しかし、今回の世界大会に参加して、どれだけ多くの被爆者が犠牲になり、どんなに悲惨な状態になったか、そして戦後80年経った今も、被爆後遺症で苦しんでいる人がいる事を知らされました。

特に、長崎原爆の会副会長の横山照子さんの講話では、4歳の時に家族共々被爆し、それからの人生すべてが原爆の後遺症で悩まされ、家族を失い、苦しんでいる事に涙が止まりませんでした。

戦争を知らない世代が大多数を占める世の中で、微力ながら二度と長崎のような事が起きないように、そして子・孫の世代が、今よりも少しでも平和な世界となるよう、核廃絶の声を上げていきたいと思っています。

札幌西区病院3病棟
看護師 石川 瑠菜

今回は被爆80年という節目の年で行われた世界大会でした。黙祷から合唱までが一体となった場の力強さに心を揺さぶられました。高校生から海外代表、被爆者までが、「未来へ平和を」と訴え、他人事ではなく全員がどの立場にもなり得る可能性を考えさせられたり、多くのことを学ぶ機会になりました。

「私たち被爆者が直接語れる機会はどう少ない。若い世代へどう伝えるか考えなければならぬ」被爆者の方々が口を揃えたようにおっしゃっていたことがとても印象に残っています。お話を聞き、「伝える」とは単に過去を語ることではなく、



『若い世代が自分ごととして考え、未来へつなげる』ことだと参加して強く理解しました。一人ひとりの力は微力ですが無力ではないことを感じ、少しでも声を上げ続ける責任を強く感じる貴重な経験となりました。

札幌西区病院 2病棟
看護師 増田 颯太

被爆80年の節目に長崎で開催された原水禁2025に参加し、被爆者の生の声に触れることで、核兵器廃絶の重要性を改めて実感しました。

国内外の参加者と共に祈りを捧げ、平和への思いを共有できた時間は心に深く刻まれました。若者から年配の方まで多くの方が発言し運動する姿があり、行動する勇気をもらいました。

シリーズ身近な健康 勤医協福祉 事業所紹介 その5

勤医協在宅型有料老人ホーム「たんねの里」

施設長 佐々木 剛史

住宅型有料老人ホーム「たんねの里」は、手稲区新発寒の住宅街にあります。「たんねの里」は2人部屋2室、1人部屋39室の計43名が入居可能な住宅です。同一建物内には「訪問看護」「訪問介護(定期巡回)」「居宅支援」「看護小規模多機能」の介護サービス事業所が併設されており、介護が必要な方でも、サービスを利用しながら生活する事が出来ます。また、終末期の方も勤医協札幌西区病院や西区ひまわり薬局との医療系サービスも使いながら、入院しないで生活を続ける事も検討可能です。

昨年度、相談の中で地方にお住いの親を呼び寄せる為に見学や相談に来られる家族が多く、実際に転居されてきた方もいます。

施設見学は日曜日以外対応可能です。



住所
札幌市手稲区新発寒6条3丁目9-3
連絡先
011-699-1511

御家族が同行できない方や、公共交通機関で一人て来るのが難しい方など、送迎対応も出来ますのでお気軽にご相談下さい。

友の会活動拡大強化月間が始まります

友の会員のみなさん、友の会活動拡大強化月間(9-10月)の期間となりました。猛暑・物価高騰で受診控えが懸念され、医療・介護についてお困り事や生活相談等、訪問時にご相談ください。ご家族やご近所のお知り合いで友の会に入会していない方がいましたらご紹介願います。拡大強化月間にご協力願います。

～ 月間スローガン ～

- ① 物価高騰や社会保障政策の抑制で、地域で困難を抱えている人と繋がり寄り添い、いのちと健康を守り、安心して暮らせるまちづくりをすすめよう
- ② 地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持存続への支援を求める請願署名を友の会員に広めよう

勤医協の協力借入金にご協力ください

友の会新聞9月号にチラシ・払込取扱票を折り込みました。国による医療費削減政策により、診療報酬が据え置かれ、物価高騰と受診抑制で全国の医療機関が経営困難に陥っています。北海道勤医協も非常に厳しい経営状況となっています。

経営の支えとなる協力借入金に是非ご協力ください。

お問い合わせ先 勤医協札幌西区病院 011-663-5711

第35回にしく健康まつり開催

【日時】 9月21日(日) 10:00~12:30
【会場】 勤医協札幌西区病院 1階フロア
【企画】 医療講演・健康相談・介護相談・コーラス・フラダンス・健康チェック・バザー・お楽しみ抽選会



健歩会 9月

北大第二農場と赤レンガ庁舎

と き : 9月17日 (水)
集 合 : 地下鉄南北線 北18条駅
2 番出口 10時集合
行 程 : 北18条駅 ⇒ 北大第二農場⇒北大構内で昼食
⇒ 赤レンガ庁舎見学後解散 歩行距離 約5km
赤レンガ庁舎の入館料は300円です
※昼食持参、小雨決行、事前申し込み不要



パークゴルフ 9月

と き : 9月30日 (火) ※小雨決行
場 所 : 五天山公園パークゴルフ場
集 合 : 12時現地集合
12時30分プレー開始
(午前中は大会が入っており午後からになります)
申し込み…友の会事務局 締め切り9月16日 (火)



7月31日に友の会雑誌「いつでも元気」販売所交流会を7年振りに開催しました。現在23の販売所で23部の「いつでも元気」を取り扱っています。交流会には12販売所の責任者や担当者が参加し、販売部数の状況や配達・集金の現状などを報告し合い、高齢化に伴う共通の問題点などを共有しました。また、誌面の内容や写真など雑誌の魅力も大いに語られ、「いつでも

『いつでも元気』販売所交流会を七年ぶりに開催

も元気」が友の会活動をより豊かにしていく力になることを再認識できた交流会となりました。



【9月の行事予定】

1日 (月)	ふれあい喫茶	13:00～
2日 (火)	ふまねっとサークル	13:00～
4日 (木)	絵手紙サークル	13:30～
5日 (金)	囲碁サークル	11:00～
8日 (月)	ちぎり絵サークル	14:00～
10日 (水)	フラダンスサークル	13:30～
12日 (金)	麻雀サークル	12:00～
16日 (火)	ふまねっとサークル	13:00～
17日 (水)	フラダンスサークル	13:30～
17日 (水)	健歩会	
18日 (木)	絵手紙サークル	13:30～
19日 (金)	囲碁サークル	11:00～
21日 (日)	にしく健康まつり	10:00～
24日 (水)	フラダンスサークル	13:30～
26日 (金)	友の会幹事会	9:30～
26日 (金)	麻雀サークル	12:00～
30日 (火)	パークゴルフサークル	12:00～

いきいきお食事は9月はお休みです

友の会事務局
電話・FAX 011-666-2877



『ひだまり広場』

～よこ顔～ (第8回) 八軒班 小野 洋子 さん

小野洋子さんは東京生まれで、結婚を機に1973年に夫さんの実家の八軒に移住しました。1997年に地域の友の会に誘われ友の会に入会した古い会員さんで、それ以来八軒班の活動に参加しています。現在27部の宅配を行っています。多くは夫さんが手伝ってくれます。八軒班が活動を開始したのは2001年からで、健康相談会・学習会等に取り組んでいます。又、2011年からは八軒班が中心となり散歩



サークル「のんびり歩こう会」を立ち上げ10年間続けました。小野さんは友の会幹事になって、高齢化する中で班活動を継続させるのが課題と感じ周りの人に入会を勧めています。小野さんは実に働き者で、高校生の時からアルバイトを始め、72歳の現在も派遣職員として55年間働き続けています。「働く事が大好き」「人とのふれ合いも楽しい」と言います。一本気な気質で、子供の頃から人見知りしない活発な子で、お父さんは厳格で厳しく、お母さんは物静かな人でどちらの性格にも似ていないと笑います。今年1月に入浴中にヒートショックで意識を失い、夫が異変に気づいてくれ事なきを得ました。夫には感謝です。これからも二人で仲良く過ごして行きます」と語ります。

灯し続けられる『原爆の火』

西區山の手の「日登寺」の境内には、「原爆の火」の塔があります。1945年8月6日、人類史上はじめての原子爆弾が広島に投下され、その時に街を焼き尽くした原爆の火が、広島から遠く離れた福岡県星野村(現八女市)に「平和の塔」が建てられ燃え続けています。星野村から出征し、陸軍の兵士として軍務についていた山本達雄氏は、広島で被爆。原爆投下直後の地獄を生き延びた山本氏は、戦争が終わって星野村に帰る

日、山本氏は叔父が営んでいた書店の跡地下壕に煙る火を形見として、星野村に持ち帰りました。その後この火は、叔父や多くの尊い生命を奪った「忌みの火」、また原爆犠牲者への「供養の火」として、23年の間密かに家族の手によって守られてきました。1968年8月6日、原爆の火は「平和を願う供養の火」として永遠に灯しつづけるよう」と、星野村が引き継ぎました。

2004年に永眠された山本さんは、原爆犠牲者の供養とともに、核戦争の脅威が増していく世界情勢を憂い、世界恒久平和を念じながら核兵器の恐ろしさ・戦争の愚かさを訴え続けました。1980年代後半、「原爆の火」は核廃絶運動の高まりを受け各地に分火されました。1989年10月29日、北海道宗教者平和協議会のみなさんが、宗派を超えて「原爆の火」を北海道にと運動し、西區山の手日登寺住職故佐藤光春さんのご尽力で境内に建立されました。この火は地域の私たちが守らなければと山崎英子さんを中心に、翌1990年から、8月6日広島に原爆が投下された日、早朝8時に毎年「原爆の火」を囲むつどいを開いてきました。



今年で32回目を迎えた「原爆の火を囲むつどい」は、多くの友の会会員や勤医協札幌西區病院の職員など80名が参加して執り行われました。(西區病院 鎌田 誠)